

百日咳レファレンスセンター



平成28年度の活動報告

レファレンス関係の分与実績

レファレンス	地方衛生研究所	
	レファレンスセンター	その他
<i>Bordetella holmesii</i> -LAMPキット	0	3
4PlexリアルタイムPCRキット	0	6
陽性コントロール	百日咳菌	0
DNA	百日咳類縁菌	1
計	0 (0施設)	10 (5施設)

百日咳に関する情報還元

- 特集 百日咳 2017年1月現在 (IASR Vol. 38, No.2 (No. 444) Feb 2017)
- Hiramatsu Y, Yoshino S, Yamamura Y, Otsuka N, Shibayama K, Watanabe M, Kamachi K. The proline residue at position 319 of BvgS is essential for BvgAS activation in *Bordetella pertussis*. Pathog Dis 1;75(1), 2017.
- Kamachi K, Moriuchi T, Hiramatsu Y, Otsuka N, Shibayama K. Evaluation of a commercial loop-mediated isothermal amplification assay for diagnosis of *Bordetella pertussis* infection. J Microbiol Methods 133:20-22, 2017.
- Hiramatsu Y, Miyaji Y, Otsuka N, Arakawa Y, Shibayama K, Kamachi K. Significant Decrease in Pertactin-Deficient *Bordetella pertussis* Isolates, Japan. Emerg Infect Dis 23(4):699-701, 2017.

近年の主な百日咳集団感染・流行事例 (2015~2017)

都市部では複数の百日咳菌とパラ百日咳菌が流行
地方では単一の百日咳菌が流行

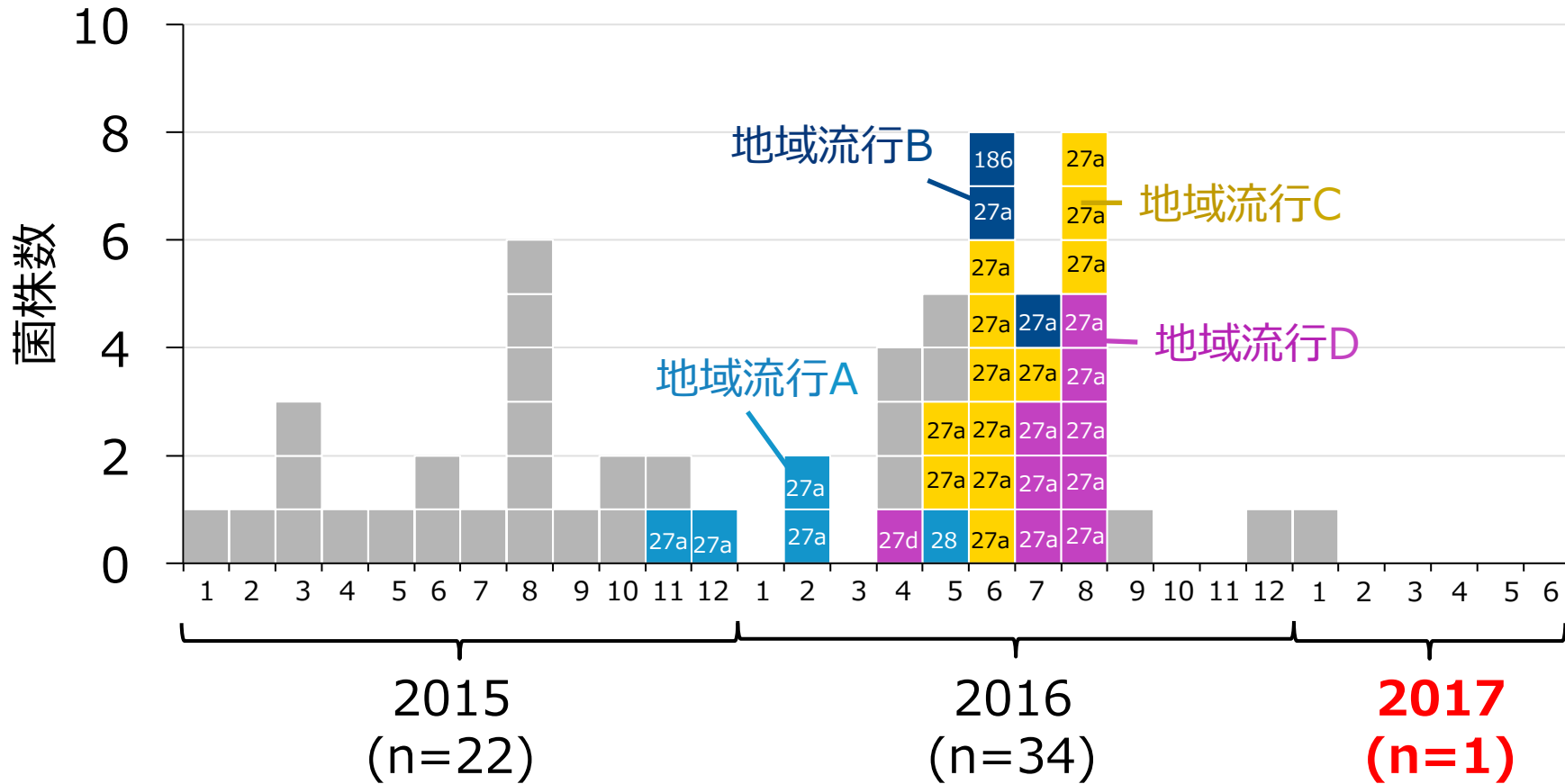
2015-2016年
富山県南砺市
主に小学生、24例（確定例）
単一の流行株（MT27a）

2016-2017
沖縄県北大東島
主に幼稚園～中学生
110例

2015-2016年
長野県木曾郡
小中学生（年齢中央値12歳）
109例（疑い例を含む）
単一の流行株（MT27a）

2016年
東京都文京区
年齢中央値5歳
57例（可能性例を含む）
百日咳菌（MT27a,
MT186）の他に、パラ百
日咳菌も同時流行

百日咳菌株の収集状況（2015.1～2017.6）



- 2016年は34株のうち、4つの地域流行で分離された菌株が28株を占める（疫学的に偏りが生じる）
- 2017年は現在までに1株しか収集できていない...

百日せき、成人増加 厚労省方針、小児科以外も報告対象

6/20(火) 7:55配信

産経新聞

せきが長く続き、重症化すると死亡することもある子供の感染症「百日せき」が、成人に広がっている。厚生労働省の部会は19日、これまで限られた小児科から受けていた患者報告の対象を広げ、全国の医療機関から成人も含めた全患者の報告を受けの方針を決めた。省令を改正し、平成30年から始める予定だ。

小児科定点把握疾患

届出基準（臨床症状）

- 2週間以上持続する咳嗽
- スタッカートウープを伴う咳嗽発作
- 咳嗽後の嘔吐、無呼吸発作

2018年1月予定



全数把握疾患（成人を含む）

届出基準（検査診断）

- 菌培養検査
- 遺伝子検査
- 抗体検査

平成29年度の活動計画

- 1) 百日咳検査体制の強化・拡充（継続）
 - 地方衛生研究所にレファレンスと検査キットの配布
- 2) 百日咳病原体サーベイランス（継続）
 - 流行株の分子疫学
 - マクロライド耐性百日咳菌

百日咳菌は年々変化しています。菌株解析にご協力をお願いします



ボツリヌス症
リファレンス・センター

北海道 秋田県 福島県
東京都 千葉県 神奈川県
大阪
三重県
愛媛県 山口県 岡山県
福岡県 熊本県 沖縄県

ボツリヌス症の細菌学的検査に必要な試薬の配布

1. **A、B、E、F型**の診断用抗毒素は、リクエストに応じて配布していますので、国立感染症研究所まで連絡ください。
2. **C、D、G型**の診断用抗毒素は国立感染症研究所に保存してあります。**C、D、G型毒素産生性ボツリヌス症**を疑う場合は、国立感染症研究所までご連絡をください。
3. ボツリヌス毒素遺伝子検出用**PCR**のための、陽性コントロールが必要な場合はご連絡ください。

ボツリヌス症の細菌学的検査に関する講習会

稀少感染症であること、動物実験を必要とすることから、検査の技術継承が難しい。毎年「動物実験」を中心に講習会を開催。

第5回講習会

2016年11月16日~11月18日

参加された施設: 埼玉県、さいたま市、大阪府

第6回講習会

2017年11月15日~11月17日

4施設のご参加が既に決まりました